

民主島根

2021年
1.31
第1377号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

総選挙、市議選で必ず躍進を 野党連合政権樹立しよう

出雲 吉井 市議選で必ず躍進を 野党連合政権樹立しよう



「団結頑張ろう」で決意を固め合う参加者（出雲市）



力強く決意を述べる吉井やすみ市議選候補（出雲市）

日本党中部地区委員会は24日、出雲市内で総選挙と市議選（4月4日告示・11日投票）での躍進をめざす「新春のつどい」を開きました。

「コロナ禍で困難を抱える若者や子育て世代の声を市政に届けるために、今度こそ思いで頑張りたい」（吉井やすみ市議選候補）、「子育て支援、とりわけ中卒までの子どもの医療費無料化を実現するために日本共産党2議席へ、大きなご支援を」（ごとう由美市議選候補）と、両市議選候補が力を込めて決意表明しました。



大平よしのぶ前衆院議員の比例議席奪還へ、

上映され、会場から拍手が起きました。

石飛育久地区委員長は「菅政権に対する国民の怒りは大きい。市民の願いにこたえて頑張れば、どの選挙でも必ず勝利・躍進することができま

す」と訴えました。

大田陽介県議は、菅政権を倒し、野党連合政権と党躍進の道をきりひらこうと強調しました。

最後に、参加者全員で「団結頑張ろう」で決意を固めました。

コロナ対策 十分な補償を 尾村県議、市議団ら訴え

中国各県の日本共産党は15日、各地でいっせいで伝を行いました。

島根県では、松江市内の商店街前で尾村利成県議、岩田剛東部地区委員長、橋祥朗、吉儀敬子、田中はじめ各市議、舟木けんじ、たちばなふみ両市議候補が宣伝。政府が感染症法や新型インフルエンザ等特措法の改定案に、入院や時短営業を拒否した場合、罰則

を盛り込もうとしているとして「罰則で取り締まる対策は、国民の中に分断を生むだけ。十分な補償や入院先の確保を行ない、納得と合意で対策を進めるべきだ」と強調しました。（写真）

松江で初 「うれしい」と学生50人来場 民青同盟 食料支援プロジェクト



会場は、島根大学から約500m離れた集会所。数日前に近くのアパートや寮などに案内ビラ

「コロナ禍で生活や学業に困難を抱える大学生を応援しようと、日本民主青年同盟島根県委員会は17日、松江市内で初めての食料支援「はっぴいふーどぶろじえくと」に取り組みました。（写真）

会場は、島根大学から約500m離れた集会所。数日前に近くのアパートや寮などに案内ビラを配布しました。約50人の学生が来場し、お米や野菜、カップ麺、レトルト食品、ゴミ袋、洗剤などを持ち帰りました。ボランティアとして運営に協力してくる学生の姿もありました。

来場した学生たちに生活実態を聞くと「オンライン授業ばかりで理解が追いつかない」「バイト代が減ったことで授業料を払っていない。使える制度を使っても食費などですぐになくなってしまふ」などの声が寄せられました。

日本共産党の尾村利成県議、田中はじめ市議、舟木けんじ、たちばなふみ両市議選候補が駆けつけ、実態を聞き取りました。

地方選・総選挙 勝利・躍進を

日本共産党オンライン演説会

2月23日(火・祝) 13時～

志位和夫

委員長がインターネットを通じてお話し



インターネット配信

自宅のパソコン・スマホを使って
You Tubeで見ることができます

日本共産党中央委員会ホームページ下の「JCP MOVIE You Tube」から視聴できます。

主催：中国5県の日本共産党県委員会

鼓動

「戦争は宿命ではありません。人間がおこすものでせん。原子兵器も人間がつくりました。それを使う使われないは世界の人類の判断と意志によります」これからの国に対してははじめに原子兵器を使う政府は、人類に対する戦争犯罪人として扱われるべきです」これは1月21日、没後70年を迎えた作家・宮本百合子の言葉（全集第19巻「願いは一つにまとめて」より）。被爆者たちの熱望、人々のたたいが歴史を前に動かし、宮本百合子の言葉が現実のものになった。70年を超えた時を経て22日、核兵器禁止条約が発効。核兵器を使うことはもちろん、使用することの威嚇、開発、製造、実験も国際法違反となった▼22日、松江駅前の宣伝行動でヒロシマの語り部として活動を続ける西尾幸子さんは訴えた。「日本の政治家ならわかるはず。この条約に参加し、批准する国であってほしい。核兵器廃絶のために力を尽くす国であってほしいです」。西尾さんの訴えはテレビでも紹介され反響をよんでいる▼「また戦争へ追いこまれようとする民衆のその母その子の妹のもう耐えきれぬ力が平和をのぞむ民族の怒りとなつて爆発する日が来る」その日こそ、地上に溜った原爆の呪いははじめてうすれてゆくだろうに／ああその日／その日はいつか（被爆者の詩人・峠三吉「その日はいつか」）。もし峠三吉が生きていたら1月22日をどう詠ったろうか▼核兵器廃絶の実現へ新たなたたかいはスタートだ。大平よしのぶさんを必ず国政へ送り野党連合政権を実現で核兵器禁止条約にサインする国に変えていきたい。（後）